

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール馬込 【8月】報告書

【活動テーマ/テーマ設定背景】

●テーマ：多文化理解

●設定背景：お子様が世界に関心を持ち、地球儀を見ながら友だちと国の場所を当てるクイズを楽しむ姿が見られた。こうした興味をさらに広げていくために、世界地図を用いてより多くの国名や国旗に親しむ活動を取り入れたいと考えた。また、他国の音楽にも関心を示していたことから、様々な文化に触れる機会を設け、多文化への理解や関心へとつなげていきたい。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

・地球儀、世界地図、木琴、マラカス

世界地図には各国の国旗が描かれており、その下に国名が隠されている。ペンで塗ることで国名が浮かび上がる仕組みになっており、お子様が楽しみながら国名を知ることができるようにした。

【活動内容/お子さまの声や姿や保育者との関わり】

- ①チームに分かれ、友だちと世界地図を広げる
- ②世界地図の各国には番号が振り分けられており、気になった国の番号と国旗を照らし合わせる
- ③国旗の下に隠されている国名をペンで塗り、知る
- ④木琴やマラカスに触れ、他国の音楽について関心を持つ

世界地図を広げ、友だちと一緒に気になる国を調べていた。その中で、大きな国と小さな国を比較する姿が見られ、あるお子様が一番小さな国を発見すると、みんなで国名を調べ始めた。それが「バチカン市国」であると分かったと、他にも小さな国はないかと興味を広げ、地図の中から探し出そうとする姿があった。また、保育者が「日本から一番近い国はどこだろう」と問いかけると、「かんこくだよ」「たいわんじゃない？」と様々な声があり、実際に地図を使って国の位置や距離を調べていた。さらに、木琴やマラカスを使って他国の音楽にも触れた。音の出る仕組みに関心を示したり、誰かがマラカスを鳴らすと、それに合わせてイスラエルの「マイムマイム」を踊ったりするなど、音楽や身体表現を通して自分たちなりに「世界」とつながろうとしていた。



【振り返りをふまえた気づき】

今回の活動では、あるお子様が小さな国を見つけたことをきっかけに、他にも小さな国を探したり日本との大きさを比較してみたりと、自分たちで考えを広げながら活動を発展させていく姿が見られた。お子様には、自ら疑問を持ち、調べ、友だちと共有する力が育っていることを実感した。

また、音楽活動においても高い関心が見られ、マラカスを鳴らす友だちに合わせて、以前学んだイスラエルの「マイムマイム」を踊る姿があった。音やリズムから過去の体験を結びつけて表現する姿に、想像力の豊かさと柔軟な発想力の大きさを感じた。